

問題はつぎのページから始まります。

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の――線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 未知の生命のソ^ン在を確信する。
- 2 冷ゾウ庫の中に牛乳を入れる。
- 3 深い森をタ^ン索する。
- 4 時間ゲ^ン守で集合する。
- 5 家に着く前に日が暮^レれる。
- 6 アウトレ^{ット}で絹の服を買う。
- 7 この果物は糖^分が多い。
- 8 政^党政治の歴史を学ぶ。

問二 次の空欄^{くうらん} A ^く E に漢字を入れると熟語が二つずつ完成する。熟語が完成するように共通する漢字を一字で答えなさい。

【例】 流 ・ 生 ^へ 答え… 派 ^く

5	4	3	2	1
呼	尊	音	親	帰
E	D	C	B	A
・	・	・	・	・
E	D	C	B	A
収	意	乱	度	配

二

次の文章は、経済学者である筆者が十代の人たちに向けて、新聞の読み方とその役立て方を説明したものの一部です。読んで、あとの問いに答えなさい。

かりに、の話ですよ。いま、あなたの気持ちとしては「新聞なんて、読む気にならないな」と思っているとしましようや。そして、あなたは自分の気持ちに①チュウジツに行動する人だから、じっさいにも新聞なんかには、ふだん目もくれてない、としましようや。

あなたが、Aそう思っているとして、その理由は、何だろう。人によっていろいろであるでしようね。「ニュースなんて、知らなくたって生きて行けるよ」とか、「ニュースくらい、ラジオやテレビで十分だよ」とか、②「活字って、メンドクセーんだよな」とか。

その理由は、いまはどうでもいい。新聞なんか読んでないのだと、仮定しましよう。

そこで、もひとつ「かりに」をつけくわえましよう。ある日、先生が「新聞を読んでこい」と言いだしたとしましよう。I先生が、とっしょ突如としてつぎのようにのたまったとしましよう。

「いいか、諸君。今日から一週間、新聞を読め。そしてダナ、何でもいいから、関心をもった記事の一つでも、二つでも見つけるんだ。そしてダナ、その記事について、感想文を書くんだ。提出は、来週のこの時間だ。何人かを当てて、その場で発表させるぞ」

こんなことを言われたら、さあ諸君、ドースル、ドースル?!

急にそんなことを言い出しそうな教師は、だれ誰だろう。諸君には、見当がつくかもしれません。国語の先生、社会科の先生、家庭科の先生などは、教科の性格からして言い出しそうですね。それに諸君は、先生の個性についてするど鋭い観察を重ねているはずだから、そこを③加味すればなおさら、誰が

Bそんなことを言い出しそうかの見当がつくでしよう。

見当がつけば、どうするか結論も出しやすい。「ああ、あんな教科は、自分の受験したいこと関係ないもん。テキストにごまかしちゃえ」というのも、いちおうの結論になるかもしれません。教科としてはテキストにつきあえばいいものとしても、その先生が自分のクラス担任だったりすると、「ちよつとくらいは、やる気を見せとかないと具合が悪いかも」という判断になるかもしれません。もちろん、「おもしろそうだな。まえから気になっていたんだ。よし、はりきってやってみよう」と考える人もいるでしよう。諸君の出す結論は、Cたぶん以上の三段階に分類できるでしよう。

どう結論を出そうと、問題は、その実行のしかたです。

たとえば、「テキストにごまかしちゃう」派の人の場合、どんなふうに「テキストに」やるんでしょうかね。なにごとそうですが、適当にごまかすというのは、そうとうに高度のテクニックを必要とするものです。

ことはできないのが、ふつうです。力もないのに「テキストに」を気取っていると、実は過度Dのことをやって過小の結果しか生み出していないというよゆうことになりがちです。まあ、それが一般原則いっぽんですね。

「はりきってやろう」派についても、似たことが言えます。その意欲をうまく生かして大きな成果を上げるにはどうすればよいか。その方法が問題もですね。

さて、ここで設定した状況じょうきょうは、こうでした。ふだんは読んでいない新聞を読めと言われる。そして、関心のあるテーマを見つけて、記事についての感想文を書けと言われる。^E どうすりゃ、いいの？ これでした。

とうぜん、まず第一に、テーマを見つけなければなりません。念のために言いますが、いま設定している状況は、先生が「何でもいいから、きみたちが関心をもったテーマをとりあげろ」と言っているケースです。これとはちがひ、先生が「これについて新聞を調べろ」とテーマをあたえる場合もあるでしょう。でも、実はその違いちがは、まったく形のうえだけのことで、この二つのケースは内容的には同じなのです。そのことにご注意あれ。

Ⅲ

先生が「これこれについて調べよ」とテーマをあたえている場合でも、そのテーマをどう扱うあつかかは、あなたがそのテーマのどこに関心をもつかによって左右されるからです。その関心をもつ点を、自分で見つけなくてはならないということは同じなのです。テーマがあたえられているからラクだ、と考えたら間違いです。あたえられたテーマのなかのどんな点に、自分は関心をもつか。そのポイントを見つけなければならぬのです。

ところがやっかいなことに、「関心をもった問題を調べろ」と言われても、自分が何に関心をもっているのか、それが自分にもはっきりしないのでありませんか。それがふつうだと、私は思います。もちろん、異性のことに関心があるとか、スポーツに関心があるとか、そんな程度の言い方なら、^④カンタンに言えますよね。だが、そんな言い方では漠然ぼくぜんとしすぎていますね。調べるという作業をするには、何を調べるかを、もっと特定し、具体的にしなければなりません。それが、むずかしい。

IV

実は、「漠然」が大事なのです。何に関心があるか。漠然となら、言えるでしょ。それが言えればシメタものです。まず、漠然と見る。関心の焦点が絞^{しよってん}りこまれていくのはそのつぎの段階のことですから。では、どんなふうにしてピントを合わせるのか。慌^{あわ}てないで、つぎを読むこと。人間の頭は、オートフォーカスのカメラとはちがいます。新聞の活字を見ていると、ピンとひらいめいて、関心にピント^Fが合うなんてことはないんです。

（岸本重陳『新聞の読みかた』）

問一 〓線部①く④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 空欄^{くうらん}

I

 く

IV

 にあてはまる語句として適切なものを次のア～オの中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

ア たとえば イ でも ウ なぜなら エ つまり オ あくまでも

問三 〓線部A「そう思っている」とありますが、どう思っているのですか。解答欄^{らん}の「く」と思っている」につながるように十五字以内でぬき出して答えなさい（句読点も字数に数えます）。

問四 〓線部B「そんなこと」とありますが、どんなことですか。四十字以内で書いて答えなさい。

問五 ――線部C「たぶん以上の三段階に分類できるでしょう」とありますが、「三段階」として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「まったくやらない」、「テキトーにごまかす」、「はりきってやる」
- イ 「テキトーにごまかす」、「ちよつとやる気をみせる」、「はりきってやる」
- ウ 「テキトーにごまかす」、「誰かに手伝ってもらう」、「はりきってやる」
- エ 「まったくやらない」、「ちよつとやる気をみせる」、「誰かに手伝ってもらう」

問六 ――線部D「過度の^{かど}ことをやって過小^{かしょう}の結果しか生み出していないということ」とありますが、その具体例として適切でないものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 自分が興味のあるスポーツの記事を取り上げて、自分の知っているそのスポーツの面白いと思う点や好きな選手、ルールについて書いた。結果としてその記事の内容とは全く関係のないことしか書けなかった。
- イ 一番大きく扱われて^{あつか}いる記事を取り上げて、その記事の要約を書いていった。一番大きく長い記事なので、その要約も長くなってしまった。結果として自分の感想は全く書けなかった。
- ウ 最初に目についた記事を取り上げた。たまたま政治の話だったので、わからないことも多くて自分なりに調べたりもした。しかし難解な内容の記事だったため、結果として自分でも理解しないままに感想を書いた。
- エ 以前に行ったことがある施設^{しせつ}の記事があったので、それを取り上げた。しかし、その記事の内容は自分の知らない情報だった。結果として、訪れたことがあるのに、自分は気づけなかったと感想で書くことになった。

問七 ――線部E「どうすりゃ、いいの？」とありますが、筆者はどうすればよいと述べていますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア テーマが設定されているか、設定されていないかを注意深く判断する。
イ テーマを見つけて、その中で自分の関心があるポイントを見つける。
ウ テーマが与えられるのを待ってから、そのテーマについて調べる。
エ 何となく何に関心があるかを考えれば、自動的に次に調べることに決まってくる。

問八 ――線部F「ピントが合う」とありますが、「ピント」とはここでは「焦点^{しょうてん}」のことです。焦点とは「人の注意や関心が集まる場所」という意味と、「光がカメラやレンズを通して集中するところ」という意味があります。次に示した図では虫メガネを使って紙に太陽の光を集めようとしています。紙と虫メガネの距離を変えた時に、光が虫メガネを通して紙にあたった部分で最も光が集まって温度が高くなっているのはどれでしょうか、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。



三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

話を聞いたときには、とても割りのいいアルバイトだと思ったのだけれど、やっぱり、世の中はそんなに甘くなかった。

「だいくたびれてるけどさ、でもこれ、顔は可愛いだろ？ 色もきれいだしさ。サイズが小さいんで、他の店員だと駄目なんだ。のぞき穴の位置がずれちゃうからさあ」

あなたは小柄だからぴったりなんだと、店長さんは嬉しそうに言う。

「わたしは友達から、お客さんに風船を配る仕事だって聞いてきたんですけど」

「そうだよ。仕事は風船配るだけ。その時にこれを着てほしいわけよ。家族連れのお客さんには、ぜったい喜ばれると思うんだよね」

そうかなあ……。

従業員用更衣室の壁に、いかにもくたびれましたという感じでもたれかかっているのは、ピンク色のウサギの着ぐるみだ。店長さんの言うとおり、テーマパークなんかで見かける普通の着ぐるみよりも、全体に小さい感じがする。

「これ、いつごろ買ったんですか」

「うーんとね、五年前だね。やっぱり創業五周年感謝バーゲンをやったときに、社長の奥さんがどっからか持ってきたんだよ。浅草で買ったって言ってたかな」

当時も、小柄な店員さんがこれを着て店の前に出て、風船やキャンディを配ったのだそうだ。

「それがとっても受けたから、この十周年記念感謝バーゲンでもやろうってことになったわけよ」

当時はこの着ぐるみだって新しくて、色ももっとずっと鮮やかで、可愛かったのだろう。お母さんに連れられて買い物にきた子供たちを、大いに楽しませたかもしれない。

だけどね。今はこれ、見る影もないじゃありませんか。

五年間、ずっと倉庫にしまいっぱなしにされていたのだろう。陽にあたってないせいか色はあまり褪せてないけれど、そのかわりあちこちに灰色の黴が生えている。二本の長い耳はくたくたとしおれて、右耳など、引っ張って持ち上げても、すぐにぺたりと倒れてしまう。

ピンク色の身体に、ぽつりぽつりと白い点が散っているのは、倉庫を掃除する人が、この着ぐるみのすぐそばで、漂白剤のついたモップを振り回したのかもしれない。薬剤がくつついたところだけ、ピンク色が抜けちゃったのだ。ということは、この着ぐるみ、おき出しで倉庫に置かれてたの？

プラスチック製のふたつの目は、油じみた埃にまみれてすっかり曇っている。

「なんか臭い。ダニがいそう」

わたしの言葉に、店長さんはおおらかに笑った。

「今日一日、日向に出して乾かせば大丈夫だよ。よく叩いてやれば埃もとれるし」

触ってみると、表面がじつとりしている。着ぐるみの背中をさぐってジッパを探し、開けてみると、内側はもっと湿っぽいようだ。おぞましくて、顔が歪んでしまった。

「だからさ、乾かせば平気だって」

先回りしてそう言うと、店長さんはぽんぽんとわたしの X を叩いた。

「それじゃ明日ね。開店は十時だけど、九時までに事務室に来てください。よろしく頼むよ」

着ぐるみの手入れをしたいなら、駐車場の方でやってね。あそこなら日当たりもいいよ。上機嫌のまま、店長さんとはっと逃げてしまった。

わたしは、ふやけた着ぐるみと一緒に残り残された。腹が立つので、着ぐるみの鼻をつんとつついてやると、たったそれだけの動きで、中身のないウサギはよれよれと崩れ落ち、壁際に倒れてしまった。

まったくもう、やんなっちゃう。

貧乏学生には、アルバイト収入は命の綱だ。いい仕事があるよ、一日で一万円。スーパーのバーゲンセールの手伝いだからきれいな仕事だよ。声をかけてくれた友達の顔が、あときは仏様みたいに見えた。でも取り消した。あいつは詐欺師だ、人買いだ。

せめてもう一日あれば、この小汚い着ぐるみを持って帰って、丸洗いすることもできたらうに。ため息が出た。

「あらあら、バイトさん？ご苦労さま」

更衣室で着ぐるみに足を突っ込んだところで、うしろから声をかけられた。ぽっちゃりとした顔をふくふく笑わせて、ちようどうちの母ぐらいの歳の小母さんが立っていた。まっすぐロッカーに近づいて、扉を開ける。名札には「田中」とあった。

「そうなんです。一日だけですが、よろしくお願いします」

「こちらこそ」

田中さんはロッカーから取り出したライトブルーの制服に着替える。そしてわたしの着ぐるみを指して言った。

「それ、一人で着るの大変よ。手伝ってあげようか」

引っ張ったり伸ばしたり、二人がかりでもけっこうな手間だった。ようやく身体を収めることができたときには、わたしはうっすら汗ばんでいた。まだ完全にウサギになりきる必要はなかったので、頭の部分だけは、フードのように背中に垂らしてある。

「蒸し暑いし、これでけっこう重たいから、肩が凝るわよ。歩くときには足元に気をつけてね。普段の自分よりもふたまわりぐらい大きくなってるわけだから、思いがけないところにぶつかったりするの」

実感のこもったアドバイスだ。

「田中さんも、着ぐるみを着たことがあるんですか？」

小母さんは、狭いロッカー室に響き渡る明るい声で笑った。「うん。だって五年前にこれを着たのはあたしだもの」

わあ、そうだったのか。そういうえば、田中さんも小柄だ。

「五年のあいだにこのとおり、太っちゃってね」

田中さんはおなかをばんばんと叩いた。おっしやるとおり、ぷっくりしている。

「十二キロも増えちゃったのよ。それでも店長は最初、あたしにもういっぺんこれを着ろって言ったんだけどね。そんなの無理無理。他の人たちじゃもっと無理。でね、どっちにしろバイトさんを頼むことは決まっていたから、だったらその人に着てもらうってことになったわけよ」

ごめんなさいねエと、陽気に謝ってくれた。わたしはえへらえへらと愛想笑いしながら、それだったら、せめてこのウサギさんを洗って
おいてほしかったと、おなかの底で力を込めて考えていた。

(宮部みゆき『千ヨ子』)

問一…………線部①②③の本文中での意味として最も適切なものを後のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

①「割りのいい」

- ア イメージが素晴らしい
- イ 仕事仲間にめぐまれている
- ウ 仕事内容に対して給料がいい
- エ 自分の気持ちとはわけることができる

②「見る影もない」

- ア 今だかつて見たことがない
- イ みすばらしく変わり果てている
- ウ 消えてなくなってあとかたも無い
- エ 見るべきところが一つもない

③「愛想笑い」

- ア 感じの良い印象の笑い
- イ 恥ずかしそうにする笑い
- ウ 心の底からの楽しい笑い
- エ 機嫌きげんをとるための見せかけの笑い

問二——線部A「店長さんは嬉しうれそうに言う。」とありますが、なぜ嬉しそうなのですか。その理由として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 色がきれいで顔もかわいいウサギの着ぐるみを着てもらうという素晴らしい仕事を説明しているから。
- イ 本当は仕事内容としては良くないものだが、それをごまかすためにそのような表情をしているから。
- ウ 小さくて他の店員では着用が無理な着ぐるみを着ることができるバイトがようやく見つけたから。
- エ 古ぼけて小汚いウサギの着ぐるみを着てもいいという人がようやく見つかってほっとしているから。

問三 ——— 線部B「ピンク色のウサギの着ぐるみ」とありますが、その着ぐるみの状態を説明したものとして適切でないものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 全体的に少し小さめで、あちこち灰色のカビが生えている。

イ ウサギ耳はピンとたっており、目の部分が曇ってしまっている。

ウ 着ぐるみの表面には色が抜けたような白い点があり、ほこりっぽい。

エ ひどく色あせているうえ、表面も内側もじつとりと湿っている。

問四 ——— 線部C「スーパーのバーゲンセールの手伝い」とありますが、具体的にその仕事の内容はどのようなものですか。それを説明した次の文の空欄に当てはまる語句をそれぞれ本文中よりぬき出して答えなさい。

① 五字

感謝大バーゲンでピンク色のウサギの着ぐるみを着て、お店の前を通る

② 九字

に

③ 八字

を配る仕事。

問五 ——— 線部D「あいつは詐欺師だ」とありますが、仕事を紹介してくれた友達をこのように言っているのは、仕事聞いていたものと、実際とでは違ったからだと思われます。聞いていた仕事と実際の仕事とを明確にして「わたし」が友達を「詐欺師だ」と言った理由を答えなさい。ただし、解答には必ず次の語句うちのどちらか一つを選んで使用し、六十字以内で書きなさい。

・ 小さすぎるウサギの着ぐるみ

・ 小汚いウサギの着ぐるみ

問六 ――線部E「おなかの底で力を込めて考えていた。」とありますが、どのようなことを考えていたのですか。次の中から最も適当なもの
のを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア もっと仕事をする日数を増やしてほしかった。
- イ 謝るよりも着ぐるみを洗っておいてほしかった。
- ウ 田中さんに着ぐるみを着てほしかった。
- エ 店長に新しい着ぐるみを用意してほしかった。

問七 空欄Xには体の一部が入ります。本文中から漢字一字でぬき出してで答えなさい。

問八 本文中の「**られた**」と同じ意味・用法の「**られた**」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を利用しただけの解答は不正解とします。

